

舞台は世界だ!

Go! Global

女子ラグビー部 NZ ラグビー遠征
Christchurch Girls' High School

2016 KGM
グローバル人材
育成プログラム
レポート Vol.9



ますます進むグローバル化は、加速するボーダーレス化とも言えます。中高一貫校での6年間は、入学から10年後、さらには20年後の社会を見据えて準備する大切な時と場です。ボーダーレスに向かう社会を早期に意識し体験する学習環境づくり。関東学院六浦は60周年を迎えた今、「若く純粋な想いを道へ.....将来を世界に繋ぐこと」が新たな使命と考えています。

RISE PROGRAM

Christchurch Boys' & Girls' High School との提携

10、20年後の未来社会を考えると、「感性が柔軟なうちに気付きを多くする」ことは想像以上に重要です。その機会の一つ、留学は、人生の視野を大きく広げます。2016年2月29日、Christchurch Boys' High Schoolからヒル校長先生を横浜にお招きし、『Rugby and International Scholastic Endeavor』(RISE)協定を結びました。同年11月30日には、Christchurch Girls' High Schoolを訪ね、調印を交わしました。語学にとどまらない多様性の学びの機会を男女別学の環境に用意しました。『ラグビーと教育の交流推進に関する協定』は一般的な友好協定ではありません。ラグビー・プログラムを組み込んだ特別カリキュラムと一般生徒対象のカリキュラムで、いずれもホームステイでの本校オリジナルの留学プログラムです。中3～高3が対象で、1年間の留学の場合には本校の授業料が免除されます。

★ 女子ラグビー部 NZ 遠征 ★



チームメイトと



グラウンドでの練習風景

2月4日(土)から12日(日)の9日間、ニュージーランドのクライストチャーチで本校中高女子ラグビー部14名が海外遠征を行いました。昨年、本校はクライストチャーチ・ボーイズ・ハイスクール(CBHS)、クライストチャーチ・ガールズ・ハイスクール(CGHS)と協定を結びましたが、今回はCGHSで学校生活を送りながら、CBHSファーストフィフティーンのコーチであるダニーさんに指導していただき、現地のラグビー部員たちと一緒に練習をし、親善試合もさせていただきました。またこの9日間は、1家庭につき部員2人でのホームステイをさせていただき、各ホストファミリーにも大変お世話になりました。今まで経験したことのない環境の中で、異文化に触れ、語学を学び、そして様々な人と出会うことで、「今の自分は海外のラグビーや語学においてどれだけ通用するのか。挑戦できるのか…」といった緊張や不安もある中、部員たちはそれ以上に探究心や向上心をもって臨むことができました。

遠征前は、「ラグビーの聖地であるニュージーランドでラグビーが出来ることは嬉しい。けれど英語が得意なわけではない。」という気持ちも正直あったかと思えます。しかし、英語でコミュニケーションを取らなければならないという現実直面し、「伝えたいことは沢山あるのに言葉が出なくてもどかしい!」という気持ちが生まれたようです。数日経つと、相手の表情やニュアンスで少しずつコミュニケーションが取れるようになっていき、「もっと会話がしたい!」「英語がわかるようになりたい!」と変化が表れました。ホストファミリーは皆、明るく親しみやすく、様々なところに連れて行ってもらいました。部員たちもホストファミリーに日本の料理や遊びを紹介し、一緒に楽しんでいただいたようです。

学校生活では、1人1人にパディがつき行動を共にしてくれたので、部員たちは安心して生活できました。授業についていくのは苦労があったようですが、グループワークや調べもの学習などは比較的取り組みやすそうでした。授業の様子を

見学していると、アクティブ・ラーニングを取り入れている授業が多く、現地の生徒たちが積極的に手をあげて発言する場面が多くみられました。

ラグビーの練習は、タッチフットから発展させて実践に近い形で行う練習が取り入れられており、楽しさと運動量が確保された短時間でも質の高い練習内容でした。親善試合では、練習を活かしたプレーでトライをとる場面もあり、練習成果を感じました。試合が終わり、お互いに握手やハグをしている姿を見ていると、海外のチームと試合が出来たことは、彼女たちにとって非常に価値のある経験になったと思います。みんなとてもいい表情をしていました。部員たちはラグビーを通して、勝敗だけでなく、学ぶことや感じる事が多くあったと思います。部員たちにとって今回の遠征は、単純に「楽しかった!」というだけでなく、自らが積極的に行動し、成功も失敗もあるけれどトライして試みる事が重要であり、試行錯誤してまた次に行動するという繰り返しの大切さを学ぶ事ができました。

このような経験が出来たことは、様々な人のご理解やご協力があったこと。自分の体験したことや数々の学びを財産として、成長につなげて欲しいと思います。そして将来、主体性を発揮し、周りの人々に働きかけができる、刺激を与えられる人材として活躍することを願っています。

引率コーチ 森下愛里名



学校の校舎



教室での授業の様子

Message from KGM Girls' Rugby Players

1日目の練習後、初めてホストファミリーに会うときはとても緊張していました。私の予想をはるかに越える大きく綺麗な家で、初日は家の探検や海で泳ぐという日本では考えられないイベントを体験しました。また、家の中に靴を履いたまま入れることに驚きました。ホームステイ先で一番不安だったことは食事でした。日本と海外では料理が全く違うと聞いていましたが、全てのごはんがとても美味しく、食事をするのも楽しかったです。遠征を通して一番大変だったことは、学校生活の授業を受けることでした。全てが英語でスピードも速く、内容はわからないことばかりでしたが、そんな自分に対して話しかけてくれるパディの子がとても優しく、申し訳ないという気持ちになるぐらいでした。英語の授業では、自分のことについて書くという課題があり、自分が持っているテキストからしぼり出して完成させた課題に対して先生からコメントをもらえた時は、とても嬉しく、今までにない達成感がありました。技術の授業では、パソコンのパスワードがわからない私のためにパディの子がたくさん動いて調べ助けてくれたこと、2回の参加しか出来ない中でも何とか作品を提出できて、その作品のコピーを家に持ち帰ることが出来たことも嬉しかったです。私はこの1週間、人間性やラグビーの技術、人の優しさや温かさなど、たくさんのことを学び

ました。また必ずニュージーランドに行きたいと思えます。英語やラグビーのスキルを今よりもレベルアップして、ニュージーランドの選手相手に思い切りプレーできる選手になって、圧勝できるようになりたいです。この経験を活かして、今後の練習にも繋げたいと強く思いました。

2年5組 篠原憩



両チーム キャプテン&バイスキャプテン

ホストファミリーは大変優しく、どこかへ連れて行ってくれたり、何かを買ってくれたり、私たちはたくさんのおもてなしをしていただき、本当に楽しい毎日でした。英語のみの生活がとても不安でしたが、思った以上に英語を聞き取ることが出来て嬉しかったです。しかし、言われていることは理解できるのに英語が上手く出てこ



ホストファミリーと

ないこともあり、悔しい気持ちにもなりました。ガールズハイスクールの授業では、ついていけないことも多くありましたが、子羊のホルマリン漬けの観察をしたり、クラスメイトの出身国と名前を覚えたりと楽しさも感じました。ランチも何人かのグループで一緒にとり、たくさん話しかけてもらえて嬉しかったです。今回の遠征は様々な人の支えにより行かせてもらえた遠征で、たくさん感謝をする人がいます。本当に良い経験になり、その気持ちは忘れてはいけなかつたと思います。遠征では、「楽しかった!」ということが多くありますが、課題も一人ひとり見つかったのではないかと思います。この遠征が無駄にならないように、様々な場面で活かしていきたいと思ひます。

5年1組 小畑結依

2017年度 KGM 海外留学プログラム

NZでの1年間留学

2017年度、本校ではニュージーランドでの1年間の留学プログラムを5校で実施します。2月スタートの1年間の留学で、留学期間中は本校での授業料を免除する参加しやすいプログラムにしています。多くの生徒が早いうちに海外を感じ、英語コミュニケーション力を磨き、将来、グローバル社会で活躍することを願っています。

Christchurch Boys' High School

本校が「RISE PROGRAM」で提携しているクライストチャーチの公立男子校です。オールブラックスを多く輩出しているラグビーの名門校で、本校のラグビー部も遠征しています。もちろんラグビー選手だけではなく、一般の生徒も1年間の留学ができます。スキー・スノーボードやテニスも盛んで、文武両道の教育を行っています。



Christchurch Girls' High School

本校が提携している公立の女子校で、Christchurch Boys' High Schoolの近くにあります。学力水準はトップレベルで、スポーツも盛んです。オーケストラがNZで最大規模の活動をしており、勉強においても課外活動においても大変優秀な学校です。日本人留学生も少ないので、海外留学での学びには最高の環境にあります。



Timaru Boys' High School

クライストチャーチから南の郊外にある公立男子校です。NZならではの自然豊かな環境で、「知識は力である」をモットーに知性を刺激する教育を行なっています。男子の成長にはチームでの競争が重要であるという精神のもと、スポーツも大変盛んです。プライベートライセンスの取得できるパイロット訓練コースもあります。



Timaru Girls' High School

ティマル・ボーイズ・ハイスクールの近隣にある公立女子校です。学生が将来的にも成功するように、実社会とつながりのある教育に力を入れており、リーダーシップを学ぶ機会も多くあります。全校生徒440名の小規模な学校なので、学生同士の交流もとても盛んです。滞在先はドミトリーとホームステイのどちらも選択できます。



Cambridge High School

オークランドから1時間30分ほどのハミルトンというエリアにある男女共学校です。モデル校と称されるほど学業成績が優秀です。個別補習など一人ひとりのサポートもしっかりしており、また留学生には観光やアクティビティなども充実しています。協力と敬意、誠実さと責任感を育てることをモットーとしています。



ターム留学

ターム留学は、約3ヶ月の1学期間留学です。本校では、3学期に実施しており、この間の学校の授業は公欠扱いとなります。英検やTOEFLなどの資格による奨学金制度もあります。現在は、オーストラリアの公立校(Queensland)、オーストラリアの私立校(Melbourne)、マレーシアのインターナショナルスクール(ニライインターナショナルスクール、マズインターナショナルスクール)で実施していますが、2017年度はニュージーランドでも実施予定です。

感動の連続!! アラスカ研修

10年後、20年後に理系分野で活躍する人材を育成するための入門として、本校では昨年度からアラスカ研修を実施しています。第2回目となる今回は、自然や宇宙、不思議な現象が好きで8名の男子生徒(3年生5名、4年生3名)が参加しました。事前学習として、成蹊大学の藤原均先生にオーロラ発生のしくみに関する講義をしていただき、また国立極地研究所で南極や北極での観測活動のようすなどを学んで準備を整えてきた生徒たちは、中学入試期間を利用した1月29日から2月4日までの7日間の日程でアラスカのフェアバンクスに出発しました。

フェアバンクスの気温は-15℃程度で震えるほどの寒さでしたが、現地の方に伺ったところ、1月末にはなんと-50℃の日が3日間続いたとのことでした。(驚いた事に、その寒さの中でも学校の授業は平常通りに行われたそうです!) 生徒たちは空港近くのホテルで防寒服を借り、水や夜食などを買い込んで宿泊地のチェナホットスプリングスリゾートに向かいました。

【1日目】

到着したばかりですが午後11時過ぎからさっそくオーロラ観測です。アクティビティセンターで待機してオーロラの発生を待ちました。防寒服は重くて動きにくいですが、ほとんど寒さを感じません。1時間ほどしてオーロラが発生しました。初めは白くぼんやりとした雲にしか見えませんが、カメラのレンズを通すときれいな緑色に見え、初めてのオーロラに生徒たちは大変感動していました。

【2日目】

アイスミュージアムを見学した後、温泉に入ったり、クロスカントリーを楽しんだりしました。夜はやや曇っていたため、昨日ほどきれいなオーロラを見ることはできませんでしたが、生徒たちの目はオーロラと雲を見分けられるようになってきました。

【3日目】

この日は犬ぞりを体験しました。その後、チェナ温泉で行われている地熱発電装置や地熱による野菜栽培のようすなどを見学しました。夜は雪上車で約15分登った山の上でオーロラを観測しましたが、山頂は全天が晴れており、素晴らしいオーロラを全方位に見ることができました。ついにはオーロラのブレイクアップという珍しい現象も起こり、幕状に広がったり、渦を巻いたり、筋状に伸びたりするオーロラに、生徒たちは瞬きもできず、夢中で観測していました。

【4日目】

チェナ温泉を後にし、途中で石油のパイプラインを見学した後、アラスカ大学北方博物館でアラスカの歴史や野生動物の種類・生態などについて学びました。またアラスカ大学では、オーロラ発生のしくみなどに関する講義も受け、海外の大

学での授業を経験する事もできました。夜は「オーロラハウス」で最後のオーロラを観測し、みんなでオーロラの下での集合写真を撮りました。

今年太陽の活動があまり活発ではないため、オーロラが見られないかもしれないと聞いて少し心配していましたが、4日間とも観測できたのはとても幸運だったと思います。今回の研修はオーロラを見ることだけが目的ではありませんが、オーロラが参加者の胸にしっかりと刻まれ、大自然に関しての興味が深まったことは確かです。極地で暮らすための知恵や工夫なども知ることができ、充実した心に残る研修となりました。

引率教諭 大村美和子



オーロラを通じて気付いた大切なこと

今回アラスカ研修に参加して、自然の偉大さや一体感を体感することができました。出発する直前まで、オーロラが見られるのか、見られてもきれいに空一面に映るのだろうかなど様々な不安を背負っていました。オーロラ観測初日、真っ暗な空にきれいな星が見え、そのあとに暗闇の空にまるで踊るようなオーロラを見る事が出来ました。僕は現地の人たちと協力し、オーロラの虜になりながらカメラのシャッターを切りました。カメラを通して見てみると、さらに幻想的なオーロラが広がっていました。

2日目はあまり見る事が出来なかったものの、

3日目と4日目は初日をはるかに超えるオーロラを観測できました。特に3日目は雪上車に乗って頂上で観測をしましたが、そのときはオーロラが東西南北すべての方角にきれいに出現し、そのオーロラを撮影していると、急にオーロラがブレイクし始めました。その状態はたったの5分弱で終わってしまい、いつも通りの姿に戻ってしまいました。このときに僕は自然の素晴らしさを学びました。オーロラがブレイクしている瞬間を見ていると、心が癒されて、何もかも忘れるくらい素晴らしいものでした。

神奈川県ではオーロラを見る事が出来ませんが、同じ地球上でオーロラなどの地球現象が発生していると考え、地球の大きさ、地球の団結力を痛感します。またオーロラは神秘的な現象なので、人の心も癒してくれる存在だと思います。

オーロラ観測は1人で行うことではなく、観測者全員で行うものです。オーロラが出たときはその達成感や充実感に満たされます。その気持ちを観測者全員で分かち合うのもオーロラを見る上で大切なことだと思いました。

オーロラは我々の心だけでなく、人の体全体であったり、世界と世界をつなぐものだと感じています。オーロラは自分の心を変えてくれる存在だとも思っています。オーロラを見る事で、自分の心に余裕ができ、たくさんのことを学ぶとても貴重なひとときとなりました。アラスカ研修は自分を超えた新しい自分に出会い、自分自身を見つめ直す素晴らしい機会であったと感じています。

4年4組 須田翔陽

校長先生のメッセージ

識字力が生活や人生を左右した時代がありました。グローバル化が進む今日、ボーダーレス化が加速する近未来、英語運用力がかつての識字力です。英語の勉強は、教科の勉強と捉えては生きる力を育てません。2015年度中1生から英語の授業を変えました。週6時間のうち5時間を教員2人によるTeam-Teaching、immersionでのCLIL(内容と言語の統合型の学習方法)で展開しています。また、総合的な学習やボランティア活動、海外研修などへの積極的参加を奨励しています。それは、基礎学力をつけ英語運用力を鍛えて、本物と現実で学ぶ経験はもう一つの識字力だからです。



関東学院六浦中学校・高等学校
校長 黒畑 勝男

